

身近な社会的事象について主体的に調べて考えるための指導の工夫

～ 地域素材を用いた学習の複線化と交流活動の工夫を通して ～

小学校社会科班 山村 英二 (小学校教諭)

担当指導主事 義務教育研究係 飯沼 良夫

自己課題設定理由

学級の児童の実態

- ・見学や調べ学習に意欲的
- ・調べて考えることは苦手
- ・自分の考えがもてない

日常の教育実践

- ・授業が教師主導で一方通行
- ・書いて覚えさせる授業
- ・考えるための手だての欠如

研修の成果と課題

成果

- ① 地域教材を開発する際に、児童にとって魅力があり、調査できるなど教材の価値を見極めることが大事である。
- ② 学習課題を複線化することで、児童は、興味・関心をもちながら人物調べを継続して行うことができた。
- ③ 先人の願い、工夫・努力などの視点をワークシートに示すことで、児童は視点を意識して考えたり発言したりできるようになった。

課題

- ① 自分と友達の考えを比較・関連させ考えられるように、多様な考えを引き出せる地域教材の開発が必要である。
- ② 学習を複線化する際に、単元の目標と学習内容や児童の問題意識に基づいて、複数の教材や学習活動を準備する必要がある。
- ③ さらに児童の考える力を高めるために、児童の考えの比較や検討の仕組みを明確にし、意図的な交流活動を考えていく必要がある。

具体的実践から得たもの

- ・地域素材を教材化する際、単元や一単位時間のねらいや学習内容を明確にする必要がある。
- ・文書資料を開発し、教材や学習活動を組み替えるなど学習過程を工夫できた。

目指す授業

目指す児童の姿

- ・社会的事象に対して興味・関心が強い
 - ・課題追究を継続する
 - ・自分なりの考えをもつ
- ### 目指す授業
- ・児童が授業の主体
 - ・児童相互の交流がある
 - ・思考力を高める

自己課題解決策

①地域素材の教材化

- ・魅力やおもしろさがある
- ・調査、見学ができる
- ・地域のよさを感じられる

②学習の複線化

- ・学習課題
- ・表現方法

③交流活動の工夫

- ・グループ同士による調べたことの発表
- ・ワークシートへの自分の考えの記入
- ・ワークシートを基に話し合い

児童の変容

- ・先人の働きや苦心に対して、自分なりの見方ができるようになった。
- ・製糸場や先人に興味・関心をもちながら、進んで調べて、考える姿が見られた。

具体的方策の実践概要

単元名「地いきの発てんにつくした人々」



「富岡製糸場」の教材化

わたしは一等工女
横田 英 (和田 美)

れんがづくりの工場
こは、群馬県富岡町 (今の富岡市) の富岡製糸場。明治6年(1873)3月2日のことです。英をはじめ11歳から23歳までのむすめたち16人は富岡製糸場の工女になるため、長野県の松代町(いまの長野市松代)から五日がかりでやってきたのでした。
明治3年(1870)、政府は、フランス人のブリューナにあたらしい製糸工場をつくることをまかせました。

作成した文書資料の一部



富岡製糸場の見学

学習課題の選択(人物調べ)

写真A 写真B 写真C

ブリューナ 尾高惇忠 横田英(工女)

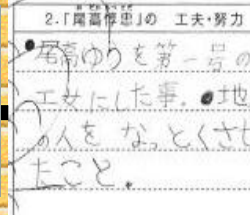
表現方法の選択

(調べたことをまとめる)

- ・紙芝居
- ・パネル
- ・ペープサート
- ・劇など



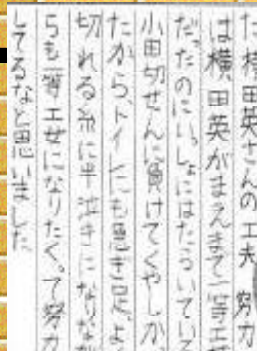
ペープサートによる発表



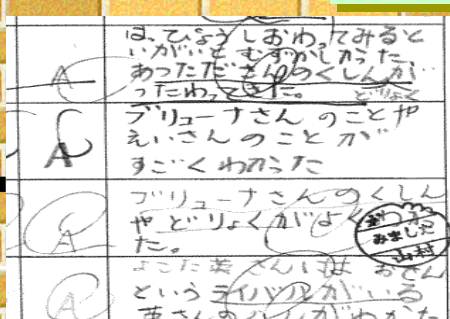
ワークシートへの記入



ワークシートを基に話し合い



児童の新聞



学習カードの記録



富岡製糸場を世界遺産に